

令和6年度 千葉市 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、相手を意識しながら自分たちの考えや思いを伝え合い、学び合い、わかり合おうとする児童の育成

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「授業中、75%以上の時間、言語活動を行っている」と回答した割合が上昇した。言語活動の内訳としては、「聞くこと」「話すこと（やり取り）」が多い。

(R4:48%⇒R5:49.1%)

②CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定している学校が増えている。

(R4:42校⇒R5:67校)

①授業におけるICT機器の活用状況において、「75%以上の授業で1人1台端末を活用した」と回答した割合や、パソコン等を用いて発表ややり取りをする活動の割合がほぼ変わらなかった。引き続き改善の余地がある。

(R4:9%⇒R5:8.9%)

②「ALT等による児童の発言や作文等に対するコメントやフィードバックを75%以上の授業で行った」と回答した割合が減少している。改善していく必要がある。

(R4:47.2%⇒R5:33.2%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①研修の内容で、指導内容や指導方法と評価の関係について扱うことが増えて、「言語活動で評価をする」という意識が指導者側に定着した。

②各種研修会で、CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定することの意義について、周知が進んできた。また、パフォーマンステストを実施する学校の割合も増えており、その有用性において理解が得られたことが増加につながった。

①ICT機器をやり取り等の練習場面で活用していくには、イヤホン等の学習環境の整備をはじめ、指導計画にしっかりと位置付けて取り組む必要がある。

②ALT等とのやり取りや発表のモデル、発音指導での活用は80%に近いが、フィードバックでは、指導者が行う授業の流れが定着している。授業でのALTの役割とその効果については学ぶ機会が少ない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①研修会の充実と推進

・外国語専科教員が徐々に増えており、言語活動を軸とした授業展開が定着してきた。しかし、学級担任が授業を行っている学校の方が多くあるので、Small Talkのような、負担感なく自然な「やり取り」を学べる言語活動について、研修会等で学ぶ機会を設けていく。さらに、言語活動で評価することの質の向上を目指すために、言語活動の捉え方や評価方法の工夫をしていく。そうすることで、コミュニケーション能力を育むことにつながっていくことを全体で共通認識していく。

②新しい教科書の内容の周知及び研修

・教科書のCAN-DOリストについて周知し、独自に作成することへの心理的ハードルを下げる。児童の学びの振り返りと、学びの目標を意識した振り返りの大切さについて、研修会等で周知する。また、中学校区のCAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定の取組状況を共通理解する場を設ける。

①ICT機器活用授業の推進

・小中学校において、実証事業としてスピーキングアプリの活用に取り組み、その効果や課題を把握していく。その後、実践事例を作成していく。また、デジタル教科書の活用について、研修会等でも操作研修を行っていく。

②指導者とALTとが連携を取りながらフィードバックを行うことは児童の学習意欲を高めることに繋っていく。ALTを様々な場面で活用することの効果について、研修会等で実践例をあげながら、周知していく。

令和6年度 千葉市 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、情報や考えなどを理解したり、表現したりすることのできる生徒を育成する。

○ CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（R 5 : 47.1%⇒R 6 : 60.0%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「授業の中で、生徒が英語で言語活動をしている時間の占める割合が、50%以上である」と答えた割合が増加している。

（R4:52%⇒R5:64%）

②これまでに行った、または年度内に行う予定としたスピーキングのパフォーマンステストの回数が増加している。

（R4:全校全学年の合計610回⇒R5:690回）

未だ改善が必要な点

①学習者用デジタル教科書を50%以上の授業で使用した割合が低い。
（R5 千葉市:19%、全国:37%）

② R5全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動」や「即興で伝える活動」を「行った」と生徒が回答した割合が全国平均より低い。

（書く 千葉市:82.2%、全国:82.8%
伝える 千葉市:63.0%、全国:63.8%）

2. 要因分析

①研修等で活動事例が数多く紹介されたことで、多くの言語活動が授業に取り入れられた。

②プレゼンテーションやインタビュー、ディスカッションの回数が増加している。単元の中でどのように計画し、指導していくかについてのノウハウが広まっている。

①発音指導の中に学習者用デジタル教科書をどのように取り入れるか、また発音指導以外の場面でどのように扱っていくかについて未だ手探りであるため、指導法が確立できていない教員が多い。

②書くことや、話すことの言語活動において、教師による目的・場面・状況の設定があいまいになっている場合が多い。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動を効果的に繰り返す指導の推進

言語活動が多く取り入れられていることを生かし、活動と活動の間に行う中間指導や振り返りを充実させることによって、よりよい表現を目指したり、次の活動に目標を持たせたりして、言語活動をより効果的に繰り返すことができるようにしていく。

②単元末のパフォーマンステストを見据えながら、複数の技能を総合的に伸ばす単元計画を行うことの推進

スピーキングのパフォーマンステストが多く行われるようになっていることを踏まえ、話すことに、聞くことや書くこと、読むことの技能を統合させた言語活動を仕組むことで、生徒が総合的に力を付けていくことができるような授業を推進する。

①学習者用デジタル教科書を活用した授業の推進

学習者用デジタル教科書の音声をも有効に活用し、聞くことのみならず、話すこと、書くこと、読むことの指導につなげていくことを推進する。話す際のリズムやイントネーションの参考にしたり、音と文字とのつながりを意識して英語の綴りを身に付けたり、音声に合わせたスピードで素早く概要や要点、必要な情報を読みとったりする好事例を収集し、広めていく。

②目的・場面・状況を適切に設定した書く活動ややりとりをする活動の推進

書くことや話すこと（やり取り）の言語活動の好事例を収集する。研修等では好事例を紹介しながら、目的・場面・状況の設定について考察し、教員が力量を高めていけるようにする。

令和6年度 千葉市 英語教育改善プラン

目標

グローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力を育成するために、英語を通じて、相手の考えを理解し、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする姿勢を身に付ける。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 100%、B1以上 77% ⇒ R6 : A2以上 100%、B1以上 80%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業における、生徒の英語による言語活動の割合が増加した。国際教養科においては、いずれの科目でも概ね75%以上の時間、言語活動を行っている回答になっており、その他の学科においても英語コミュニケーションⅠ、Ⅱについては同様の回答になっている。(R4:66%⇒R5:71%)

②英語担当教員の授業における英語使用状況が増加した。英語コミュニケーションⅠ、Ⅱについては発話の75%以上を英語で行っていると回答している。(R4:70%⇒R5:79%)

①スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した科目の割合について、引き続き改善の余地がある。(R4:61%⇒R5:58%)

2. 要因分析

①英語担当教員の授業における英語使用状況の改善により、生徒が英語に触れる機会が充実し、実際のコミュニケーションの場面が増えたことが要因と考えられる。(R4:70%⇒R5:79%)

②SSH事業における海外共同研究における英語でのやり取りの必要性の浸透、共通ワークシートの利用、指導主事訪問等で、1回1回の授業に必ずInputとOutputを行うように指導してきたことが要因と考えられる。

①いずれの科目においても、スピーキングまたはライティングのどちらか一方は実施している状況であるが、ライティングテストを実施した割合が低くなっている。ライティングテストは評価が難しく、教員の負担が大きいことが要因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

○生徒の英語力を改善するための施策・事業
英語を通じて、相手の考えを理解したり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとする姿勢を身に付けるため、SSH事業における海外共同研究の推進（令和5年度新規海外（韓国）連携校1校）、ICT活用の推進、英語圏および非英語圏の国との国際交流を通じた授業外の活動（オンライン共同研究や、海外研修、国際交流活動）を推進する。

○教員の英語力および授業力を改善するための施策・事業
「教師の英語力・指導力の向上のための実践的なオンライン研修」への各校、毎年1名ずつの推薦を通じて、外国語教育に関して中核として活躍が期待される教員の育成を推進する。

○指導と評価の一体化の推進
校内研修や指導主事訪問等を通じて、教科・科目の評価について、目標に準拠した観点別学習評価として実施することが明確化されたことを踏まえ、「話すこと」及び「書くこと」のパフォーマンステストを行うことが必要であることについて働きかけを行う。

千葉市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		100	100	100		100		100		100	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		80	77	80		80		80		80	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	71	75		75		75		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	58	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	50	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		100	67	100		100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		75	79	80		80		80		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	47	60		63		65		68	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		85	64	85		87		89		91	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	70	85		90		95		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	90	93	100		100		100		100	
		公表（％）	50	43	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	50	44	70		80		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		60	46	49		52		56		60	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		70	57	65		70		75		80	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	60	63	65		70		72		75	
		公表（％）	25	36	45		50		53		55	
		達成状況の把握（％）	60	50	65		68		70		72	